

Green Brave

#52 Green Brave GR Supra GT

AUTOBACS SUPER GT 2024 SERIES

Round.3

SUZUKA GT 3HOURS RACE

2024年6月1日(土)～2日(日) 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)

■ ■ ■ ■ 5位でチェッカーを受けランキング2位に浮上 ■ ■ ■ ■

第3戦のレースは3時間。ドライバーは吉田選手と野中選手のレギュラーコンビです。予選日(土)の天候は晴。95分間の公式練習は9時45分から行われ、野中選手がコースイン。6周目に1分59秒081をマークし、4位につけます。約40分間走行後、吉田選手に交代。両選手ともに種類の異なるタイヤを試し、吉田選手はGT300専有時間の直前まで走行を担当します。11時10分からのGT300専有時間は野中選手が担当し、公式練習は終了。野中選手のタイムがベストとなり、順位は7位。日曜日は雨予報が出ており、天候が非気になるところですが、予選で使用するタイヤも早々に決まり、順調な滑り出しです。

Q1はB組、A組の順に行われ、Green BraveはA組に出場。

野中選手はやや時間を置いてからコースイン。タイヤを入念に温

めながらウォーミングアップを行います。野中選手は4周目にアタックを行い、1分59秒022をマーク。7位でQ1を終え、上位組のQ2(Gr.1)に進出しました。16時11分から行われたQ2(Gr.1)。吉田選手は野中選手と同じタイヤを使用し、3周目に1分59秒233をマーク。Gr.1の4位につけ、両ドライバーの合算タイムにより、6位で予選を終えました。予選6位は今シーズンの最上位です。

決勝日(日)の天候は曇。午後から雨予報が出ており、誰もが天気予報の変化に敏感ですが、正解はありません。チームはスタートドライバーに野中選手を起用。レースの展開と天候の変化を見ながら2回のピットイン義務をこなし、後半のスティントを吉田選手に託す作戦です。ウォームアップ直前にまとまった雨が降ったため、レインタイヤを装着してコースイン。しかし、スタート進行が始まった頃から急速に天候が回復したため、グリッド上でドライタイヤに交換します。野中選手はスタートで2つ順位を下げ、8位で1周目を終了。前を走るのはFIA-GT3車両の#7BMWで、レース序盤は7号車を追いかけるレースが続きます。19周を過ぎて、ライバルがピットに入りはじめますが、チームは走行継続を指示。吉田選手が使用するタイヤで最後まで走り切る必要があるため、引っ張る作戦を選択します。33周目に野中選手がピットイン。給油のみの短い作業時間でピットアウトします。コースに復帰した野中選手の順位は3位。しばらくは予選2位の#61BRZをおさえて走行しますが、タイヤの摩耗が進んでおり44周目に4位へポジションダウン。その後、3位に復帰し、48周目の終わりに2回目のピットインを実施します。吉田選手に交代し、給油とタイヤ交換を行い、14位でコースに復帰。最も早いタイミングでのピットインとなり、後続がピットに入るたびに吉田選手の順位が上がっていきませんが、タイヤがコンディションに合っておらず、ペースを上げていくことができません。それでも吉田選手はあきらめずに力走を続け、58周目の終わりに5位に浮上。翌周から#6フェラーリ、さらに70周目から#31レクサスLC500hを追いかけますが、コース上で順位を上げることはできず、5位でチェッカー。予選3位から2位に入った#2GR86とのポイント差は拡大したものの、他のランキング上位チームが下位に沈んだため、チームランキング2位に浮上。GR Supraが苦手とする鈴鹿で確実にポイントを獲得し、チャンピオンを狙える位置につけています。

決勝結果(GT300クラス)

#52 Green Brave GR Supra GT
(吉田広樹/野中誠太)

決勝: 5位(85周、3時間02分02秒495)

予選: 6位 合算タイム: 3分58秒255

(Q1 A組: 7位、Q2 Gr.1: 4位)



DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

(予選後) 完璧ではなかったですが、順位が上がるほどの大きな伸びしろが残っていたかという点、それはないぐらいでした。誠太がニュータイヤ、自分が中古タイヤで、大きなミスなくアタックをまとめられたので、悪くないと思います。6位は今シーズンの予選最上位ですが、ぼくらより重りを積んでいる2号車がもうちょっと前にいるので、今後の課題だと思います。明日はできれば降ってきて、レインタイヤで走れるほどの雨量があると、ぼくらには都合がいいと思いますが、現状の予報はそうではなさそうなので、天候次第です。

(決勝後) こちらのペースが全然なく、前を追い上げることもできず、一生懸命走るのが精一杯でした。走っている分には雨の問題はなかったですが、どちらかという雨が降ってほしかったですね。タイヤがたれるのはわかっていたので、ペースがあったのははじめだけでした。何が悪いかわからないので、できる限りと思ってプッシュしたのですが、タイヤがたれるのも早かったです。そのあとも何が起きるかわからないので、精一杯走って、前の31号車を追いかけて走っていました。まあ、一杯一杯でしたね。次の富士も頑張ります。



野中誠太 選手

(予選後) 公式練習の走り始めからコースに入って、走らせてもらいました。グリップレベルの高い状態はイメージできていたので、予選はしっかりまとめるだけだったのですが、ミスもなく、いいアタックができたと思います。後半の組で走れたのも、6番手という順位につながったと思います。あまり調子がいいわけではなかったのですが、吉田選手とぼくで、しっかり力を出し切れ、チームも最大限のパフォーマンスを発揮したと思います。明日はピットのタイミングや戦略で前に出るのがぼくららしいと思うので、しっかり準備をしたいと思います。

(決勝後) 雨の心配がある中、長いダブルスティントになりましたが、ずっとドライで走ることができました。ぼくのタイヤがハード側で、吉田選手にはソフトしか残っていないという状況で、ぼくの走行を引っ張るのは予想していました。スタートで2台のFIA-GT3に先行されたのですが、落ち着いてペースを維持。燃料タンクが軽くなってからのバランスも良く、終盤でも良いペースで走ることができ、少し前に入れた要因になったと思います。今回調子が良いわけではなかったのですが、その部分をしっかり研究して改善すれば、さらに良い順位が狙えると思います。



次戦予告

8月3日~4日
富士スピードウェイ
(静岡県駿東郡)

GT300 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	D'station Vantage GT3 (アストマーティン ヴァンテージ GT3 EVO)	85周
2位	muta Racing GR86 GT (トヨタ GR86)	85周
3位	UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI (フェラーリ 296 GT3)	85周
4位	apr LC500h GT (レクサス LC500h)	85周
5位	Green Brave GR Supra GT (トヨタ GR Supra)	85周
6位	PONOS FERRARI 296 (フェラーリ 296 GT3)	85周

天候：曇 路面：ドライ トップ6まで(出走27台)

GT300 クラス チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	8	muta Racing INGING	49
2位	52	埼玉 Green Brave	34
3位	88	JLOC	31
4位	31	apr	29
5位	777	D'station Racing	26
6位	65	K2 R&D LEON RACING	25

トップ6まで

PARTNERS



Driving Mobile Media Innovation

アルパインマーケティング株式会社



株式会社アルシエ



株式会社 FM NACK5



株式会社小倉クラッチ



株式会社カロッツェリアジャパン



埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社三和



株式会社セーフティライフ



大和ラチエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



BP カストロール株式会社



株式会社プロモーション



株式会社プロモーション



Mechanix Wear LLC



株式会社 REIZ